

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)		授業コード	C172567
担当教員名	園田 一則		科目ナンバリング グコード	L31205
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	自らが興味を持って取り組む姿勢が必要です。積極的に参加し、指示されることを待たないでテーマに取り組んで下さい。また、必要な機器・器具は積極的に活用しても構いませんが、精密機器の場合は取り扱いに注意して下さい。マニュアルに従って正しく使用して下さい。 また、ゼミ室は整理整頓に心掛けて下さい。			
受講心得	ゼミナールは出席して自分で器械を操作して、修得していくことが中心です。従って出席を重視します。欠席が多くて課題が完成しない場合は、その年度は受講できなくなりますので、必要な人は次年度に再履修してください。			
教科書	特にありませんが、必要に応じて紹介します。また、関連資料を配布します。			
参考文献及び指定図書	よくわかる測量実習(コロナ社) 細川吉晴他 測量士・測量士補受験テキスト (測量協会出版) 空間情報工学 村井俊治著 (測量協会出版) その他、配布資料			
関連科目	測量学及び実習、地理情報処理演習、施工1、施工2、その他関連専門科目			

授業の目的	測量及び地理情報システムを活用した環境調査や応用技術を学びます。通常の講義・実習で実施できない範囲の分野について学びます。特に測量分野では、VRS方式のGNSS測量や地理情報システムにおいては各自でコンテンツを考えて構築します。 GISの実習として、与えられたテーマで構築し、その成果を発表します。 測量分野での卒業研究を行う為の予備的な調査・研究を行うことを目的とします。
授業の概要	主に学外での測量及び調査が中心で、得られたデータを活用する方法を考えていきます。測量士受験準備のための演習課題に取り組みます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：ガイダンス</b> 本研究室で取り組んでいるテーマに関する成果を紹介し、地域貢献について各テーマの成果について解説します。	<b>配布資料</b> 受講ガイダンス資料 他
<b>第2週：基準点調査実習</b> 学外における公共基準点について、国土地理院データから検索する方法を実習します。	<b>配布資料</b> 演習課題・解答例
<b>第3週：地域調査実習</b> 各地域における基準点の成果情報をデータとして取り出し、活用方法について学びます。	<b>配布資料</b> 演習課題・解答例
<b>第4週：学外調査(1)</b> 本研究室で取り組んでいる対象地区の基準点調査を実施します。また、地域貢献について現場で解説します。	<b>配布資料</b> 演習課題・解答例
<b>第5週：学外調査(2)</b> 対象地区の実測調査を実施します。(尚、対象地域は年度のよって変更する可能性があります。)	<b>配布資料</b> 演習課題・解答例
<b>第6週：学外調査(3)</b>	<b>配布資料</b>

対象地区の実測調査を実施します。		演習課題・解答例
第7週：学外調査(4) 対象地区の実測調査を実施します。		配布資料 演習課題・解答例
第8週：学外調査(5) 対象地区の実測調査を実施します。		配布資料 演習課題・解答例
第9週：学外調査(6) 対象地区の実測調査を実施します。		配布資料 演習課題・解答例
第10週：学外調査(7) 対象地区の実測調査を実施します。		配布資料 演習課題・解答例
第11週：学外調査(8) 対象地区の実測調査を実施します。		配布資料 演習課題・解答例
第12週：学外調査(9) 対象地区の実測調査を実施します。		配布資料 演習課題・解答例
第13週：調査結果整理 現地観測結果のデータを整理・解析して成果表を作成します。		配布資料 演習課題・解答例
第14週：プレゼンテーション資料作成1 対象地域の現状について、その実測資料を基に資料作成を行います。		配布資料 演習課題・解答例
第15週：プレゼンテーション		配布資料 演習課題・解答例
第16週：成果発表会		配布資料
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①GNSS測量を実測・成果処理までできる。
<b>【知識・理解】</b>	②GISに関する基本的な事項について概説できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③調査事項を整理して発表できる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	④自らがテーマの問題点を解決していく方法を理解し取り組める。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		30点		
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点		
<b>(「人間力」について)</b>				
<p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	パワーポイントを使用した資料に基づいて、発表を行います。評価は、自分の内容に自信を待って発表し、他者の発表に質問が出来た者を高評価とします。